

平成18年度末木曾馬調査 報告

木曾馬保存会事務局

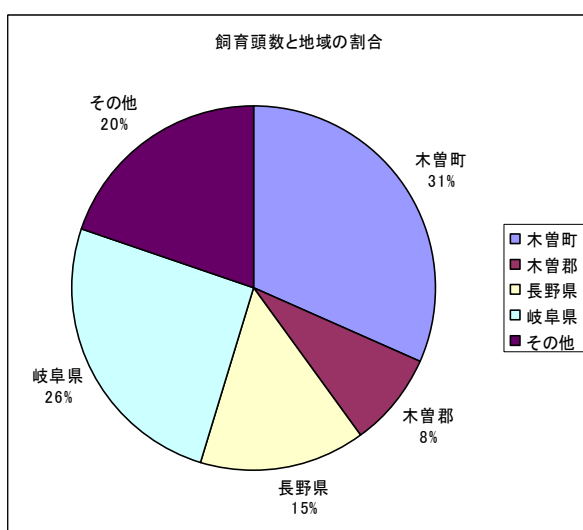
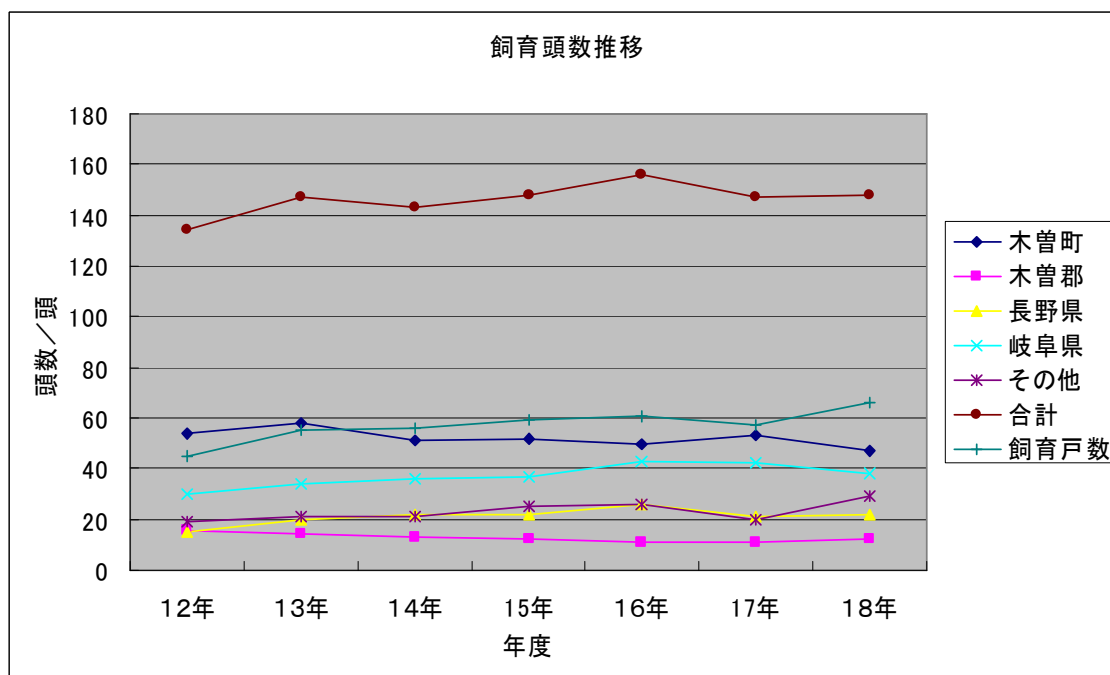
平成19年3月現在の飼育頭数（飼育者と連絡が取れ、生存の確認できる馬）は148頭で、内訳は開田地区内47頭（6頭減）、木曾郡内（開田地区を除く）12頭（1頭増）、長野県内（木曾郡を除く）22頭（1頭増）、岐阜県38頭（4頭減）、その他29頭（9頭増）である。飼育戸数は66軒で飼育頭数、飼育戸数共に昨年よりも増加している。このほかにも飼育しているが、連絡が取れない等の事由によりカウントしていない馬もいる。

登録では18年度は11頭（3頭増）の血統登録をしたが、内7頭が「木曾馬種」登録で通っている。「日本ポニー（木曾系）」登録は昨年度は無かったが今年度は4頭行っている。この件については、日本馬事協会の協力により19年度に「日本ポニー（木曾系）」登録の馬の品種名「木曾系種」への書き換えがかなうこととなり、準備を進めているところである。

18年度の種付け状況及び19年度の出産予定状況に関して、18年度は種付け数が17年度よりも減少し、「幸葵号」6頭（2頭減）、「豊桜号」3頭（3頭減）、「鈴風号」3頭（1頭増）、「栄宝号」4頭（2頭減）、「清山号」0頭（3頭減）の計16頭である。種付け予定馬の死亡等が数頭あったのが大きな原因と見ている。木曾馬トレッキングセンターで登録した「嶺宝号」は18年度使わず19年度再度精液の状態を見てから供用予定である。また、平成18年11月に北海道より「風恋号」を岐阜市畜産センターへ導入し、こちらは19年度より供用予定である。19年度の出産予定数は増加している。予定頭数は約15頭となっており場合（不受胎馬が含まれている可能性がある）により18年度より減少すると思われる。

18年度産駒の売買状況は保存会員以外への売却が多くあり、利活用面での飼養が期待される。また、依然仔馬の値段はそれほど上昇傾向に無いが近年落ち着いてきており、ようやく買い手にも手の届きやすい価格になってきたように伺える。その要因のひとつは家畜商を介さずに取引が行われる為であるが、生産者にも購買者にも利点があるので今後の流れになっていきそうである。今後の課題としてはやはり生産者への馴致・調教法の指導等（場合により当歳～1歳馬を乗馬施設に預けての馴致等）が木曾馬の価格向上につながると考えられ、高く売る為には高齢生産者も努力しないといけなくなっている。

	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
木曾町	54	58	51	52	50	53	47
木曾郡	16	14	13	12	11	11	12
長野県	15	20	22	22	26	21	22
岐阜県	30	34	36	37	43	42	38
その他	19	21	21	25	26	20	29
合計	134	147	143	148	156	147	148
飼育戸数	45	55	56	59	61	57	66



飼育頭数はほぼ横ばいで推移しているが、年々原産地域よりも遠いところの数が増えていっている。

飼育頭数の割合の変化

木曾町 (旧開田) 36% > 31%

木曾郡 7% > 8%

長野県 14% > 15%

岐阜県 29% > 26%

その他 14% > 20%

木曾郡内の数字は仔馬が残っている為、岐阜の数字は整理馬で追跡調査不能馬 (行き先不明) のため